

☆尿一般検査☆

検査項目	基準範囲	単位	説明
PH	5.0~7.5		通常弱酸性 (PH6.0 前後) を示します。食事内容・飲み物・運動・睡眠等で変化します。
糖定性	(-)		尿中に糖が出ているかどうかをみる検査です。血糖値が 160~180mg/dl 以上になった時や腎臓の糖吸収能力が落ちたときに出現します。
蛋白定性	(-)		主に腎疾患で出現します。過度の運動・ストレス等により一過性に出現することがあります。
ビリルビン	(-)		肝臓や胆道の疾患で増減します。黄疸の原因の分類や経過観察にも役立ちます。
ウロビリノーゲン	ノーマル		ビリルビンが腸内細菌の働きで変化したものでビリルビンと同じ意義があります。
潜血	(-)		腎臓や尿路系の出血で尿中の赤血球が増加した場合に陽性となります。
ケトン体	(-)		嘔吐や食事が摂れない状態、糖尿病のコントロールが悪いときなどに陽性となります。
亜硝酸塩	(-)		尿路感染で陽性となります。(頻尿や食事内容により陰性となることがあります)
白血球反応	NEG		尿路感染や炎症で尿中の白血球が増加した場合に陽性となります。
比重	1.005~1.030		腎臓が体に必要な水分量を調節する力を表します。水分摂取量や発汗により変動します。
尿中有形成分定量	(省略)	(省略)	尿中に排泄される細胞成分等を機器で定量的に測定し、腎臓や尿路の状態をみます。
尿沈渣	(省略)	(省略)	尿中に排泄される細胞成分等を顕微鏡で観察し、腎臓や尿路の状態をみます。

☆糞便検査☆

検査項目	基準値	単位	説明
便潜血免疫法 (ヒトヘモグロビン 精密測定)	0~99	ng/ml	消化管出血の有無を調べる検査です。ヒトの血液のみ検出しますので食事制限は不要です。

臨床検査の説明



済生会富田林病院
臨床検査科

2007年6月1日
2016年4月20日改
2021年4月1日改

☆生化学検査☆

検査項目	基準範囲	単位	説明
TP (総蛋白)	6.6~8.1	g/dl	血清中に含まれているタンパク質の総量です。栄養状態の総合的な指標です。
ALB (アルブミン)	4.1~5.1	g/dl	血清中に含まれるタンパク質の一種で、栄養状態、肝臓、腎臓の病気の指標です。
T-Bil (総ビリルビン)	0.4~1.5	mg/dl	ビリルビンには直接型と間接型があり、総量を示しています。肝機能障害や胆道の閉塞などで増加します。高くなると黄疸が出現します。
D-Bil (直接ビリルビン)	0~0.5	mg/dl	直接型ビリルビンのことで、黄疸の鑑別診断に用いられます。
AST (GOT) (アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)	13~30	IU/l	酵素の一種で、主に肝臓や心臓の病気で高値となります。
ALT (GPT) (アラニンアミノトランスフェラーゼ)	男: 10~42 女: 7~23	IU/l	肝臓に多い酵素です。肝臓に障害があると高値となります。AST よりも肝臓に特異的です。
LDH (LD) (乳酸脱水素酵素)	124~222	IU/l	酵素の一種で、肝臓、心臓、筋肉、血液の疾患で高値となります。
ALP 新基準 (アルカリフォスファターゼ)	38~113	IU/l	酵素の一種で、肝臓、胆道、骨などの疾患で高値となります。
ALP 旧基準換算値 (アルカリフォスファターゼ)	106~322	IU/l	
γ-GTP (γGT) (ガンマグルタミルトランスペプチターゼ)	男: 13~64 女: 9~32	IU/l	酵素の一種で、肝臓、胆道の疾患で高値となります。特にアルコールや薬剤による肝障害で増加します。
CH-E (コリンエステラーゼ)	男: 240~486 女: 201~421	IU/l	酵素の一種で肝障害、栄養障害で低値となります。

検査項目	基準範囲	単位	説明
T-CHO (総コレステロール)	142~248	mg/dl	血清中の脂質の一つで多すぎると動脈硬化のリスクが高くなり、高血圧、心臓病などの生活習慣病の原因となります。
HDL-C (HDL コレステロール) (善玉コレステロール)	男：38~90 女：48~103	mg/dl	血管壁に付着した LDL (悪玉) コレステロールを取り除き、動脈硬化を防ぐと考えられ、善玉コレステロールと呼ばれています。
LDL-C (LDL コレステロール) (悪玉コレステロール)	65~163	mg/dl	動脈硬化性疾患の診断、食事療法や薬物療法の治療効果を判定する指標となります。
TG (中性脂肪)	男：40~234 女：30~117	mg/dl	総コレステロールと同様に高値の場合は動脈硬化の原因となります。食事によって値が変動します。
BUN (尿素窒素)	8~20	mg/dl	腎臓の障害で高値を示します。高蛋白血症や脱水などでも、高値となります。
CRE (クレアチニン)	男：0.65~1.07 女：0.46~0.79	mg/dl	腎機能障害の早期発見に役立ちます。
UA (尿酸)	男：3.7~7.8 女：2.6~5.5	mg/dl	細胞の核の成分であるプリン体の代謝産物です。増加すると痛風、高血圧、腎障害となります。
Na (ナトリウム)	138~145	mEq/l	電解質 (ミネラル) の一つで、体中の水分調節や浸透圧調節に重要な働きをしています。K (カリウム) が異常高値になると心機能に障害を引き起こします。
K (カリウム)	3.6~4.8	mEq/l	
Cl (クロール)	101~108	mEq/l	
Ca (カルシウム)	8.8~10.1	mg/dl	骨や歯に多く含まれ、生命維持に重要な役割をしています。
IP (無機リン)	成人：2.7~4.6 小児：4.8~5.6	mg/dl	多くは骨に含まれ、Ca と高値低値が反対の動きをします。
血糖 (グルコース)	73~109	mg/dl	糖尿病の最も重要な指標です。食事や運動、ストレスなどで影響を受けます。
HbA1c (NGSP) (ヘモグロビン A1c)	4.9~6.0	%	糖尿病コントロールの指標となります。1~2ヶ月前の平均的な血糖値を反映しています。NGSP 値は国際的な基準でこれまで使用してきた JDS 値に比べ約 0.4%高い値となります。
GA (グリコアルブミン)	11.8~16.0	%	糖尿病コントロールの指標となります。2週間前後の平均的な血糖値を反映しています。
AMY-血中 (アミラーゼ)	44~132	IU/l	酵素の一種で主に膵や唾液腺で作られ、膵臓の障害や耳下腺疾患の診断に用います。
AMY-尿中 (尿中アミラーゼ)	0~780	IU/l	
CPK (CK) (クレアチンキナーゼ)	男：59~248 女：41~153	IU/l	骨格筋や心筋などに多く含まれています。心疾患 (急性心筋梗塞など)、筋肉疾患などで増加します。

☆血清検査☆

検査項目	基準範囲	単位	説明
CRP (C 反応性蛋白)	0~0.14	mg/dl	炎症や組織の損傷があると増加するタンパク質です。炎症症状の指標となります。
RF テスト (リウマチ因子)	15 以下	IU/ml	リウマチ性疾患の診断や治療経過の判定に役立ちます。

☆血液検査☆

検査項目	基準範囲	単位	説明
WBC (白血球数)	33~86×10 ²	/μl	細菌、ウイルスによる感染、炎症などで増減します。
RBC (赤血球数)	男：435~555×10 ⁴ 女：386~492×10 ⁴	/μl	血液中の主な細胞成分です。貧血や多血症の指標になります。
Hb (ヘモグロビン)	男：13.7~16.8 女：11.6~14.8	g/dl	赤血球に含まれる色素のことで、酸素を運ぶ働きがあります。貧血の有無や赤血球増加症が判断出来ます。
Ht (ハマトクリット)	男：40.7~50.1 女：35.1~44.4	%	一定量の血液に含まれる、赤血球の割合 (%) です。
PLT (血小板数)	15.8~34.8×10 ⁴	/μl	出血時、血を止める働きをしています。

10²、10⁴はそれぞれ10の2乗、10の4乗

☆血液凝固検査☆

検査項目	基準範囲	単位	説明
PT (プロトロンビン時間)	70 以上	%	血を止める働きのある凝固因子の活性を複合的に調べる検査です。抗凝血療法 (ワーファリン等) の指標にもなります。
Fib (フィブリノーゲン)	200~400	mg/dl	血を止める物質です。運動、妊娠、炎症等で増加することもあります。
血中 FDP (血中フィブリン分解産物)	0~5	μg/ml	血管内で血栓を溶かす機能が働いている (働いていた) ことを証明する検査です。血栓症、DIC 等の診断に用います。